

# 神野御茶屋

## 殿様の別邸

2012.9.24 月 — 12.1 土

休館日／日曜・祝日 開館時間／9:30～16:00  
入館料／300円(小学生以下は無料)



徵古館

The Museum CHOKOKAN  
NABESHIMA

# 鍋島直正公と神野御茶屋

10代藩主 鍋島直正公は、わが国の近代化を他藩に先駆けて先導した藩主ですが、多忙な殿様に必要だったのが「御茶屋」という別邸でした。数ある直正公時代の御茶屋のうち、弘化3年(1846)に造営された最も宏壮な御茶屋が神野御茶屋です。その造作は壯麗で、室内は選りすぐりの御道具で飾られ、藩士と親睦し御一家と遊ばれた神野御茶屋は、藩主の心をしばし解き放つ特別な空間でした。

明治時代以降も、御下県の際には侯爵鍋島家による園遊会が催されました。大正12年(1923)に鍋島家から佐賀市に寄附され、神野公園と名を改めて来年で90年。今なお親しまれている御茶屋の歴史を文書や古地図、古写真からたどり、室内を飾った御道具の数々により往時の趣きを偲ぶ展覧会です。



## 神野御茶屋

KONO Villa Since 1846

「方百間」を誇る広大な敷地のうち、北東に位置する一棟を「無限青山亭」、中島に建つ一棟を「茶雨庵」と称した。「無限青山」の名付け親は幕府の儒学者・佐藤一斎。一斎が揮毫した同名の扁額は広間(御入座)の北側、はるか天山一帯を見晴らす場所に掲げられた。「茶雨庵」とは直正公の号である「茶雨」によるものだろう。

梨子地鳳凰雲鶴  
蒔絵中央卓

江戸時代後期(18世紀後半)  
古満巨柳 作

唐松布袋唐子堆朱香盆  
中国・明時代(16世紀)



紺紙白字詩書屏風 江戸時代前期(17世紀) 洪浩然筆  
筆者の洪浩然は朝鮮出兵の際、佐賀に連行され鍋島直茂・勝茂父子に仕えた。漢詩と書に優れた儒者。紺紙に胡粉で漢詩を書した本作は、嘉永3年(1850)から神野御茶屋を飾った。

## ◆佐賀城下探訪会(まち歩き)【要事前予約】

まち歩きを通して佐賀城下の歴史を再認識し、今後のまちづくりに繋げる探訪会です。参加ご希望の方は、微古館HPのお申込みフォーム、または電話・ファックス・メール等にてお申し込みください。

- ① 9月16日(日) 藩祖・直茂ゆかりの宗智寺と神野御茶屋
- ②10月 28日(日) 長崎 観光丸クルージングと神之島
- ③11月18日(日) 長崎街道めぐり
- ④12月 2日(日) 城下の歴史跡めぐり(2)

【時間】①・③・④は9時30分に微古館を出発(16:00頃 終了予定) / ②は8:30に本丸歴史館北側(合同庁舎西側)の駐車場を出発 【持参】弁当・飲み物等は各自持参 【費用】資料代500円が必要(このほかに、①は星茶代200円、②はバス代・乗船代4,000円が必要)

## ◆講演会 & ギャラリートーク

10月6日[土] 14:00~ 於:微古館2階フロア

大園 隆二郎氏(佐賀市文化財保護審議会委員)「鍋島直正と神野御茶屋」

\*講演会終了後に、学芸員によるギャラリートーク(展示解説)を行います。



- ◆長崎自動車道 佐賀大和IC.から市街方面へ車で20分
- ◆JR佐賀駅から徒歩約20分
- ◆佐賀駅バスセンターから、市営・昭和・祐徳の各バスで ◇県庁前下車、東へ徒歩3分 ◇「佐嘉神社」下車、西へ徒歩1分

- ◇入館料: 300円(小学生以下無料)
- ◇開館時間:午前9時半~午後4時(日・祝は休館)
- ◇お問い合わせ: (0952)23-4200
- ◇主催:(財)鍋島報效会(佐賀市松原2丁目5-22)
- ◇ホームページ <http://www.nabeshima.or.jp>

